資料編

～参加者の声をまとめました～

1　活動レポート

○「今後の活動の参考となる事例」として、上位に挙げられたものは表１のとおり。
上位 10 事例には、まちづくりのさまざまな取組を行いながら、幅広く地域住民に参加を促しながら活動を行っている事例、行政・警察・学校との連携を図りながら活動を行っている事例、大学生が活躍している事例などが挙げられている。

本資料は、ワークショップ参加者から「グループ活動レポート（P108 参照）」を回収した 90 票を有効票としてまとめたものです。意見交換の中で、今後の活動の参考となる事例を、自由記入してもらったもののうち、数の多い順に整理しました。（同数については、名簿番号順）

名簿番号	取組事例（概要）	N
34	10 年前から登下校の見守り・防犯パトロールを始め、小学校にゴーヤでの緑のカーテンづくりを提案。収穫したゴーヤの収穫祭等のイベントで他自治会やＰＴＡとの連携、異世代交流を進め、学校での様々な行事へと発展。防犯カメラ設置等も行う。	9
2	朝夕の通学路の見守りを行う六本木パトロール隊。防犯組織と警察とのランチミーティング等で連携体制を強化している。	8
46	防犯キャンペーン等を行う学生ボランティアの参加機会を促す手法として、活動参加回数（10 回以上）に応じた感謝状制度を導入している。	8
95	行政、警察、ＰＴＡ、町会、学生等、さまざまな主体に協力を呼びかけ、防犯パトロールを展開。小学生の見守り活動も行っている。	8
4	メンバーの高齢化にともない、組織運営が困難さを増している現状を説明し、ボランティアであっても無償では継続が難しいことを問題提起。	7
5	公園に鯉のぼりをあげる等、できるだけ多くの親子が参加できるような企画を展開し、防犯活動への参加者を増やしている。	7
13	83 運動（朝８時と昼３時）で登下校時に保護者の目を光らせるとともに、区との連携によりＧＰＳ付きの防犯ブザーを全児童に持たせている。	6
36	公園と隣接した塀のない小学校があるまちだが、警察や行政との連携を密にしながら、防犯につとめている。	6
91	明星大学の学生主導による防犯ボランティア。地域の小中学生や高校生との交流も行っている。	6
93	区域外の他のボランティア団体や警察と連携しながら、一人暮らしのお年寄りに対する一声運動等を行っている。	6

＊Ｎ数は、当該事例を選んだ人の人数。また、Ｎ数が同じ場合は、名簿番号順に表記。

名簿番号	34
取組事例	選択理由
10年前に通学路で声かけ活動から始め、小学校に緑のカーテンづくりを提案。これをきっかけに学校、町会等と協働で防犯活動へ発展。現在、通学路に６台の防犯カメラ設置にまで至る。	長い期間の活動により、活動を発展させるためのきっかけづくりにアイデアがあり、良い結果となっている。
学校と町会の連携。核となる学校を中心に、３つの町会があり、垣根がありましたが、緑のカーテン事業を通じて、町会の垣根が取れ、学区内に６箇所の防犯カメラを設置するまでの過程を話されました。	-
環境問題の改善。通学路の見回りについて等。	とても良い活動をしていると思うから。
異世代交流。ＰＴＡと地域との連携。小学生から育てていくべき。一緒に同じことをすることが大切。子供を褒めることで、きっかけづくりをする。	自分自身も少し感じていた。ちょっとしたきっかけづくりをすることで、これからの働きかけになる。
子供と一緒に地域との連携を図った。ゴーヤを植え、キャンプ。祖父母との交流を考えた。世代の交流。夜６時パトロール。	いろいろな行事を計画している。
子供の通学路に、登下校ごとに見守り、防犯パトロールをひとりで10年前から行動し、３年くらいかかったが、地域と協力して緑のカーテン（ゴーヤ）を学校に。今では、学校で月１回誕生会を行う時に、３町会６名が毎月参加するようになった。	三位一体の取組が自然と素晴らしい型。学校に入り込めたこと。
小学校の父兄の取組。世代間の交流。	-
世代の触れ合い。異世代交流。父母を呼び込む。緑のカーテン。場所の提供。子供達の防犯パトロール。社会福祉。	人材不足で新メンバーに参加してもらいたい。
通学路での毎日の子供の見守りから始めてごみ拾い、学校でゴーヤでの緑のカーテンづくり、補助金をもらい、防犯カメラ設置へと進んだ。収穫したゴーヤの収穫祭等のイベントで他自治会、ＰＴＡとともに連携を取りながら、学校でのさまざまな行事へと発展している。	学校との連携という観点では素晴らしく、防犯活動からさらに進んだ展開が素晴らしいと思った。

名簿番号	2
取組事例	選択理由
子供の通学時に、近くに住む外国人が出てきて危ないので、ボランティアを配置し安全を守っている。	子供の安全を守るために、このようなことを行うことは良いことだと思ったから。
住宅街とは異なり、子供たちの登下校も危険を伴うので、まちの中に拠点を設置して見守り等に活用できている。	六本木という特殊な地域での取り組みに興味が持てた。
セーフコミュニティの話が大変参考になりました。	-
セーフコミュニティのお話、無償のボランティアの話。豊島区で実践している。	-
東京都の再開発については、六本木の外国人の問題等、民間では限界があるので、警察も協力して欲しい。	六本木で遊ぶことがあり、外国人の多さに驚くことがあるから。
防犯組織と警察とのランチミーティング。	行政と密着情報が大事。
港区の六本木で防犯活動をしているとのこと。セーフコミュニティの普及を望みたいと思います。	-
六本木パトロール隊。朝夕、通学路の見守り。六本木という場所柄、朝でも朝帰りの酔っ払いがいるそうで、安心して通学できないとのこと。	警察との連携が素晴らしい。所長さんの計らいで、警察官とのランチミーティングを３回やった。道場にパトロール隊の中の10人が顔写真で紹介されている。

名簿番号	46
取組事例	**選択理由**
学生の方々のボランティア活動参加機会を取り込むための方法として、活動参加回数（10 回以上）を評価し、表彰する。	参加者の増員。
学生ボランティア、10 回参加すると表彰されるそうで、参加者が増えているそうです。	-
学生ボランティアが多く集まるためのポイントを発行しています。	-
学生ボランティアで参加し、チラシ等を配布しているが、渡す相手を見て、ひったくり、振り込め詐欺等を抑えている。	誰でも良いと思い、チラシを配布していた時があったから。
学生ボランティアをしているが警察官と見間違えられ、警戒されてしまう。	話を聞いてくれる人も勿論いるが、そういう人も世の中にはいる。
警察官と一緒に防犯キャンペーン活動をしていた時に、子供にチラシを配布しようとしたら、親が勘違いをして、文句を言ってきて困ったことがあった。	-
大学１年生で、振り込め詐欺の防止活動をしている。	若い人が頑張っている点。
大学生で成城警察署の防犯ボランティアをしているが、子供に声をかけしたところ、親に拒否され、どうやって対処していいのか戸惑ったが、人にはそれぞれ個性があって考え方も違うので、気にしないで、こういう人もいるんだと考えて活動したらどうかとの意見が出ました。	私自身も同じように感じましたので、これを選びました。

名簿番号	95
取組事例	**選択理由**
行政、警察、ＰＴＡ、町会、学生等、どんどん話し、引き込んで楽しいまちに。	学生、子供、高齢者、障害者等、おもいやりのできるまちに。
行政、警察、学校等の防犯活動について、各地域の安全・安心まちづくり条例を確認して参考にする。それぞれの担当者を集めて意見交換会を開いてもらう。	-
警察、市役所には、時々訪問するようにする。	-
警察と連携して、安全・安心パトロールをしている。ともかく何かあったら警察にすぐ相談する。	警察と仲良くすることがとても大事。
小学校の見守り活動。盆暮れに子供のパトロールを４年、20 ～ 30 名で実施。町会長名で感謝状を出す。小学校にまとめて持っていき、校長から渡してもらう。パトロール終了後にアイスクリームを食べる。	-
ただ、パトロールして歩くだけではなく、愛をこめて、一人ひとりに挨拶するということを伺い、大変、参考になりました。	町会の防犯婦人部に所属しているので。
防犯パトロールをすることで、下着ドロボーや空き巣が減った。	防犯パトロールがこんなにも効果があるのに驚いたから。
連絡を取りながら。	-

名簿番号	4
取組事例	選択理由
金、人が集まらない。高齢者には困る。	-
地域のボランティアのメンバーが高齢者ばかりで困っている。体力的に活動日も限られてくるし、金銭的にも限界がある。若い活動メンバーが必要。	地域のボランティアは、自腹で活動しているのだと知りました。若い活動メンバーを取り入れるのも難しいのだと感じました。
振り込め詐欺、夜警、交通パトロールを皆でしている。	振り込め詐欺、私のところも多いと聞きました。
ボランティアと言っても、全て無償では続いていかない。何か効果的な案があれば提案が欲しい。	ボランティアを続けていく中で切実な問題提起をされていて良かったと思う。
メンバーの高齢化にともなう組織運営の困難。資金的援助を求めていくべき（行政、警察）。	参考になったから。
夜９～ 10 時の夜間パトロール。終わった後の仲間との集会。	何をするにも活動経費が必要。住民の高齢化にともない、防犯団体構成も高齢化。
ラジオ体操第一にみんなで参加して顔見知りになり、地域の輪が広がりつつある。	-

名簿番号	5
取組事例	選択理由
親子の参加者を多くできるような企画をして、防犯活動への参加者を増やし、活動の活性化を図る。	-
公園に鯉のぼり。	周りの目がいっていることが一目でわかるし、子供は楽しい。
地域住民の方にお祭りの簡単な作業の手伝いをしてもらう。	地域の人々が活動に触れるきっかけとなるため。
町会の活動で、鯉のぼりをあげたり、七夕飾りを子供たちと作っているが、自宅にいるお年寄り等に手作業等できることを手伝ってもらい喜ばれている。	小さなことからコツコツと活動していることの大切さ。
町内会の連絡は素晴らしいと思いました。町会等の活動として参考にしたいと思います。どの方も参加者を見つけるのに苦労しているようです。	-
ポスターや鯉のぼりを公園等に貼ったりする広報活動。地域を明るくすることで防犯につなげる。	-
まちの公園に鯉のぼりをあげる。	楽しいまちづくりにつながると思う。

名簿番号	13
取組事例	選択理由
８３運動。朝８時と昼３時に、小学生を見守ることで、防犯を行う。	時間帯を限定していて、活動に参加できる人が固定的になるのかもしれないが、交流や関係を持つという点で優れていると思った。ただ、８時と３時では見逃しがあるのかも。
８３運動で登下校時に保護者の目を光らせるようにしている。品川区役所では、ＧＰＳ付きの防犯ブザーを全児童に持たせている。	地域の子供達を見守るために、地域住民の目が必要だと思ったため。
ＰＴＡ活動をしていて、どのように助成金を？チラシを配る時、もらって頂けない場合どうしたら良いか。	-
学校での防犯活動について、被害にあった時の対処について。	被害に遭った時の対処法を学んだから。
子供達の見守り８：30 ～３：00、83 運動をしている。子供達の見守りには、皆さんの目が光っているので、子供達が被害を受けるようなことがないと思いました。	子供達の見守りをしっかりやっていることに感心しました。
防犯ブザーについて、品川区ではＧＰＳ機能と話すことができる機能がついている。最初は、誤作動とかで大変だったが、今はだいぶ落ち着いてきている。	防犯ブザーの取り付け位置がよく考えられていないので、いざという時には使用できないと思う。

名簿番号	36
取組事例	**選択理由**
一日に時間帯を変えて、3時、5時、9時にパトロールしている。	-
お住まいの地域の小学校には塀がないと聞いて驚きました。公園と小学校がつながっているらしく、出入りは可能なのに犯罪が起きていないのが不思議でした。	地域の連携の大切さを実感しました。
学校と公園が一体化して塀がない。今まで犯罪もない。素晴らしい。	このような学校が初めてなので、選びました。
行政との連携はまず顔を合わせて親近感を持つこと。行政に対して、利用させてもらう、身近な情報が欲しい。	上手な連携ができている。
警察、行政に顔を出すこと。親しくなり、現状を知ることになり、連携を取ることができる。	我々の町会長が「警察、行政の言いなりになるな」と常々言っているので、皆さんはどのように活動を進めているのか知りたかった。
住宅街が95%を占める地域、公園と隣接した塀のない小学校があるため、防犯が難しいが、今までそこで事件が起こったことはない。	上記のような立地条件にありながら、事件が起こらないのは、やはり地域のかかわりが密だから。侵入者を許さない連携が取れているのではないかと感じた。

名簿番号	91
取組事例	**選択理由**
学生が中心となってボランティアをしていることに感心した。そして、学生がその他の方々に働きかけ、大きな輪となって事業を行っている。	中心となる人が、うまくリーダーの方々の力を信じ、任せている。
学生ボランティアを主催し、地域と協働で活動している。3.11以降、学生の意識が変わり、積極的になってきた。大勢の学生が参加するようになった。地域の小中学生や高校生との交流ができ、地域から褒められることにより、さらに意欲が高まっている。	若い人のボランティアに対する意識を知りたかった。
ごみ拾い、防災活動について等。	-
大学生と協力してパトロール。	-
大学生ボランティアが防犯活動。学生中心で中学校に出向く。	参加者拡大。
明星大学の学生さんボランティアの事例。学生が防犯ボランティアをしていると地域のお年寄りが褒めてくれて、学生もモチベーションがあがり、相乗効果があって良い。	学生さんと地域の方とのコミュニケーションが取れているのは素晴らしいと思った。

名簿番号	93
取組事例	**選択理由**
各ボランティア団体との連携により、区域外での活動を行いやすくなった。	区域外での活動が制限されている中で、このように活動の幅を広げていこうとしている努力が素晴らしいと感じたから。
住宅地で高齢者が多いことから、一人暮らしのお年寄りに対する一声運動を行っている。	-
地域を区切って防犯活動をする。	-
東京都と埼玉県の境の東京都側で広報していても、埼玉県に入ってしまうので、隣の町会（埼玉県）と話をして、どちらでも広報できるようにした。	前進した考えです。
隣の警察との縄張りをなくして頂いた。	防犯協会を中心に。
見回りの時に、新聞がたくさんたまる等、不自然な点があれば注意する。	老人の孤独死防止ができたら。

名簿番号	38
取組事例	選択理由
活動経費は最初自前ではじめた。ＮＨＫの取材があった。	-
ご近所付き合い広め隊。できるときに、できることを、無理をせず、仲間が自然体で活動する。バザーや花見、お楽しみ会等を行う。	-
毎日のパトロール。犯罪が激減。効果は必ずある。	-
毎日パトロールを行っている。少ない所は３名～ランダムにパトロール活動をされていることが素晴らしく感じました。	参加者が少ないことに大変苦労しているため。
三日に一度空き巣が入るような地域を年間 10 件ほどに。ＮＨＫでも取り上げられた。区から 10 万円の補助金をもらう前は、バザー等でやりくりしていた。できることをできる人から。	まず、三日に一度も空き巣が入る地域というものを初めて知り、実際に実績を出している点。バザー等でのやりくりは自分でもできると思う。

名簿番号	43
取組事例	選択理由
青パトを所持し、子供の身の回りに力を入れている。自分が育った場所が、安全・安心という気持ちがあれば、必ず戻ってくることを信じている。	-
活動団体の高齢化にともなう団体の弱体化対策として、同地域内の大学等の他団体との交流の必要性。地域住民とのネットワークの強化。	-
地区内での活動。無理な誘いはせず、やりたい人がやりたい時に活動する。３時～４時半に見回り活動。	-
防犯活動、民間交番の立ち上げ、青パトの活用。	-
防犯ボランティアというジャンル全体の課題は高齢化で新しいメンバーの参入が追いついていないが、住民の中で義理が生じて地域での生活と活動の間でギクシャクしてしまうのは困るため、できる人ができる時に参加するというスタンスを取っている。子供見守りに力を入れ、民間交番等も開いた。	ディスカッションの中で、大学生と既存の地域防犯団体との交流という話に議論が及び、警察に働きかけ、学生との地域のボランティア団体の交流の場を設けて欲しいと要望すれば、設けてくれるはず。地域の方も、そういう場を欲しているから、受身にならずに動いて欲しいと言われ、勇気づけられた。

名簿番号	56
取組事例	選択理由
ＮＰＯ法人で助成金をもらい、プランターを買って配置する。花を植えたり、野菜を育てることで、地域を活性化させる。	ボランティアを行っている人の多くは家庭があり忙しい。そのような中で、できることとして、良い考えだと思った。
第一回子供見守りボランティア修了者としての経験。フラワーポット等の活動。	都、区の助成事業の成功例として。
パトロールだけではなく、地域に子供の絵を飾ったり、プランターに水やりをする。	パトロール以外の活動でも地域の環境を良くすることにより、防犯に役立つこと。パトロールより気軽に参加できるため。
パトロールをしたり、ＮＰＯ法人に所属していて子供見守り活動の一部でプランターを配り、花や植物いっぱいのまちにすることで、犯罪をする人も心が揺らぐかなという思いのため。	子育てや仕事がある中で、自分にできるボランティアを行っているというところに魅力があった。花や植物を植えることはいいなと思った。
ボランティア活動に積極的に入りたくなるような仕事はないか。	-

名簿番号	92
取組事例	選択理由
20 年以上前から、防犯協会に参加して活動。	-
チラシ配りの時の顔をみたり、声をかけることの大切さ。	同意見です。
チラシを渡す時、目を見てしっかり渡すともらってくれる。チラシをもらって、オレオレ詐欺に遭わなかった。	チラシを配っても、なかなか若い人はもらってくれない。
配布場所の参考になった。	駅前でしかしていなかったので。
振り込め詐欺を防ぐためのチラシ配り。	毎月、三軒茶屋の駅上でやっているが、なかなか受け取ってもらえない。コンタクトレンズ等のようなチラシ配りのひとと一緒にしているし。顔を見て渡すと良い。

名簿番号	3
取組事例	選択理由
悪質な客引きや酔っ払いから治安を守るために、夜間や通学時間にパトロールを行っている。	普段のボランティア活動で対象としていない人達に対して、どのようなことをしているのか聞けたので印象に残ったから。
学校に対してＰＴＡのかかわり。	-
夜間パトロール、ＰＴＡを介しての朝の子供のパトロール。	とても大切な問題で、どうやって解説していくべきかを考えていたので。
六本木地区を、夜、朝、パトロールを行っている。	40 ～ 60 代が数多く、パトロールに従事している点。自分のところは、60 歳以上が大半。

名簿番号	11
取組事例	選択理由
大きな祭りをする。祭りにより、絆がつくられる。	人が集まる機会を利用して、隊員を増やす方法を知りたかった。
自治会のパトロール。７年前、アカデミーで学んでから始めた活動で継続中。	団地での空き巣や放火が実際に減っている。
第一回アカデミーの修了者としての経験。地域の防犯活動。	経験豊かな事例として。
祭りが１つの防犯対策。そこからいろいろな問題を減らすことができる。まちづくりへのチャンスとなる。	私は、お祭りは、ただのお祭りと思っていましたが、こうした視点によって改善していくことに気づきました。

名簿番号	20
取組事例	選択理由
活動についての都からの助成金がない。	-
通学路の安全活動は、自分が元気を子供達からもらい、父兄とも親しくなる。	-
どのようなところで犯罪が起こりやすいか調べて報告する。地域の人とコミュニケーションを取る。	このような活動をしていけば、一人ひとりが意識・注意して生活できるから。
防犯のやり方を教えてくださった。町会とのかかわり。	-

名簿番号	35
取組事例	選択理由
地域と学校とのかかわり。青パトで巡回している。	-
防災と防犯は両輪。ボランティアは、欧米なみに有償にすべき。責任感が生まれる。無関心層が多い。	-
防犯、防災も大切。ボランティアも無償ではなく有償にした方が良い。	-
防犯カメラ、人に反応する機器の設置、花壇等のプランターの設置。	花壇のプランターを設置するのであれば、地元の小学校と協力できると思ったから。

名簿番号	45
取組事例	選択理由
学童保育の問題、育成会の問題。	見守り隊をしているから。
杉並町内。月～金。１チーム５～６人で行う。３名以下は中止している。パトロールの基本がよく守られている。	-
地域と学校のかかわりについて。	児童の見守り隊をしているから。
保育、学校とＰＴＡの問題。育成会のこと。	学校とＰＴＡは協力して行うべきことが、いまいちできていない。

名簿番号	65
取組事例	選択理由
学生時代からボランティア活動をやっていると、大人になった時には、すんなり入ることができるし、やってみたいと思う気持ちも持っている。	無償のボランティアに入ることは、子供の時の生活環境が大きく作用する。
学生パトロール。高校生が駅前に立つ。	-
高校生が駅前でティッシュを配る。警察の人と自分達で呼びかけをする。	高校生が参加することは良いことと思いました。
練馬工業高校、公園の花壇づくりを学校生徒会で行っている。	学生ボランティアの素晴らしさを知る。

名簿番号	88
取組事例	選択理由
学生さんのため、学校のまわりの町会・団体とのコミュニケーションが思うようにならない。	-
学生ボランティア活動について、地元の学生でないと意識が薄い。	-
子供のことなら、学生ボランティアがいる。	-
明星大学の学生さん、地元の大学生がもっと防犯パトロールに参加して欲しい。	-

名簿番号	105
取組事例	選択理由
次世代につなげて輪を拡げていくには。	学生さん達との話し合いを持ちたい。
自治会と学生ボランティアの交流は若者から働きかけるべき。	ボランティアに向かう気持ちを新たにしました。
地域の若い人とお年寄りの方が交流できる場、意見交換できる機会を作る。	さまざまな意見を取り入れることは大切。このような機会を若い人たちから作っていくことの大切さを再確認した。
若者が地域住民と交流する場にもっと出て欲しい。地域の基盤を作って欲しい。	-

名簿番号	107
取組事例	選択理由
高齢者が多いため、若い人がボランティアしてくださるとありがたい。自治会より予算を頂いている。	-
町会員を増やす方法。	-
町会の現状。	参加率等の話を聞くことができた。
メンバーの高齢化にともなう組織運営の困難。学校ＰＴＡへの呼びかけ。防犯マップづくり。	参考になったから。

名簿番号	108
取組事例	選択理由
学生ボランティアがどのように立ち上げられ活動しているのか。グループリーダーとして約 50 名のメンバーをまとめ、警察の指導により活動している。	高齢化している会員の中で、どのように地元の学生に参加してもらえるようになるのか。
学生ボランティアとして同地域の他団体との交流の必要性。	-
学生ボランティアを立ち上げ、２年あまりになるが、地域とどのように連携していいのか少し迷っている。所属する警察などと話し合いを持ちたい旨、希望を言うことが大事とのこと。	-
大学の防犯団体で活動が終了すると、そのまま解散してしまうので、一緒に活動した団体との交流が図れないのが残念だとのこと。	-

名簿番号	6
取組事例	選択理由
地域社会のつながりはどのようにすれば良いのか。商店街イベントを行うが､来てくれない。どうすれば良いか。警察との連携。地域に溶け込みにくい環境。	若い人が来てくれないという事例から、どのようにすれば来てくれるのか、住み良いまちになるのか、話し合いをしたが、尽きない。
道路でイベントしたいが、どのようにするか。各署に行って話した方が良い。	-
年寄りと子供が一緒に楽しめる会をするために、歩行者天国をしたいが、やり方がわからない。	-

名簿番号	7
取組事例	選択理由
子供見守りボランティアリーダー育成講座を受講し、より強く安全・安心なまちづくりに協力している。	-
わんわんパトロールの事例。	犬の散歩との協働の有効性。
わんわんパトロールを実施している。各自が好きな時に、という自由なあり方が継続につながると思う。	-

名簿番号	8
取組事例	選択理由
行政や警察の根回しをよく行い、防犯係や交通係に行き、よくお願いすること。	若い人の参加者をつくり、地域を安心・安全な町にしたい。
人脈づくり。	他の区の人と話すと、自分の区に足りないものがわかる。こういうことを自分の区に要求していいんだと勉強になる。
人脈づくり。	わが町会に取り入れる。

名簿番号	25
取組事例	選択理由
学童の行き帰りの防犯パトロール。	-
下校時の小学生への対応。	防犯パトロールをしていて、懸案だった。
世田谷区防犯活動。	-

名簿番号	31
取組事例	選択理由
夜間パトロール（PM9 時～）。防犯カメラを設置、人の気配で光るライト。自分の居住地は安心・安全だから余計なことはしなくて良い。	-
夜間パトロール。企業にも協力してもらう。	音を出すことは良いことです。
夜回り活動、地元企業との協力。	夜回りは固定化されて、少々存続が難しいと感じた。地元企業が協力してくれないと、防災面での問題があった。

名簿番号	37
取組事例	選択理由
９年前から、月・水・金 11 ～ 18 時のパトロール。ひとりがパトロール中に 100 人に声をかける。また、ごみ拾い。メンバー 43 名、１回 20 名。	-
月・水・金の清掃。１人、100 人に挨拶する。祭りで参加者に呼びかけ。退職者への呼びかけ。パトロール母体がしっかりしている。皆のパトロールが生活習慣になっている。	-
皆が喜んでボランティアに参加している。良いリーダーに会うと会は盛り上がる。	３町会を受け持っているが、１町会の場合の話を聞きたかった。

名簿番号	41
取組事例	選択理由
365 日、朝のラジオ体操の壇上にのぼり、子供達にも顔を覚えてもらう。	-
偶数の月の 15 日に防犯（振り込め詐欺防止等）の呼びかけ、ティッシュ配り、ビラ配りをしている。警察署からティッシュ等を持ってきてくれる。まちの人々は興味・関心がなく、なかなかもらってくれない。もっと身近に感じて欲しい。	まちの人々はひったくりや振り込め詐欺は自分とは関係がないと思って無関心だと知った。もっと身近に感じてもらうためにはどうしたら良いのか考えたいと思ったため。
年金受け取り時の振り込め詐欺の取組について。ティッシュ等を配り、犯罪防止につとめている。	とても耳にすることが多いので。

名簿番号	44
取組事例	選択理由
行政、警察のいうとおりに使われている状態でいる。若い世代の人にバトンタッチしていかないと、高齢者がいつまでも続かないでのではないか。	-
経験豊かな方なので、耳を傾けましたが、やはり警察からの連絡は早くとのことも同感でした。率先して近所付き合いをしていること。賛同します。	-
わんわんパトロール、防犯パトロール。	-

名簿番号	71
取組事例	選択理由
学生ボランティアの厳しさ。単位免除方式。指導者の必要性。	納得しました。
防犯カメラに対する意見を質問された。	-
学生ボランティア、地域のコミュニケーションが大切。子供を巻き込んでパトロールをしている。指導者が必要ではないか。	-

名簿番号	72
取組事例	選択理由
ＡＴＭ近くで高齢者に声をかけて振り込め詐欺防止活動中。ＳＶＳ成城警察署ボランティアグループに参加、駅頭活動中。	お年寄りの見守りボランティアは必要と思われる。
学生にできること。チラシ配りは良いと思いました。年金の日の銀行前など。	-
成城警察署の依頼を受け、学生が空き時間に振り込め詐欺防止のビラ配り等をする。	同じ学生ボランティアの方だったので、興味が沸いた。

名簿番号	77
取組事例	選択理由
「あいさつは魔法の力」、小学生が挨拶せずに、知らない人は不審者とみなす世の中。こちらから挨拶すると、いつかは挨拶が返ってくる。	20 年くらい前から、知らない人に名前を言わない教育が進み、今は知らない人に敵愾心を抱く。穏やかなまちづくりをしたい。
育成会。	-
中高生の交通マナーやルール。挨拶等。	自分の高校、いろんな中高生等の様子や取組。

名簿番号	85
取組事例	選択理由
週３回のパトロールと訪問活動をされているとのこと。	学生も参加して頂くことが良いと思われる。若い力を頼りにしたいと考える。
大学生で当会への参加。	大学生をいかに地域の防災・防犯活動に取り込むかを思考しているため。
夜間のパトロールで不審者と思われる。授業の空き時間にパトロールしている。	警察官に同行してもらうと良いのでは。若い子がボランティアに向かう姿を知りたかった。

名簿番号	96
取組事例	選択理由
青葉町みまわり隊。７年前より。高齢化が問題。子供にも参加させ、年末に参加した子供に感謝状を出す。	-
お盆と年末に子供と一緒にパトロールする会。パトロールが終わった後に子供達にご褒美をくれる。	子供の思い出づくりと両立した防犯パトロール。かつ、犯罪が起こりやすい時期がうまくカバーしていること。
若い人が参加してくださったことに対して、育てていくには、交通費を出すという良いお話がありました。	-

名簿番号	103
取組事例	**選択理由**
大学生でなぜこの会に参加されたのか。	大学生を地域組織に取り込むか。
ピーポーズでの活動。	同じ学生ボランティア、ピーポーズとして、また先輩として今後に役立つ話をして頂いた。
ピーポーズの組織に加入して活動している。	大学生が防犯ボランティアをできるシステムがあることは良いと思った。

名簿番号	9
取組事例	**選択理由**
パンフレットの配布について、道行く人は受け取らない等、学生さんより人間関係が薄いように思う。大人は、もっと若い人に目を向けて欲しい。	学生さんからのお話が少ない。無理はないと思いますが、もっと何かのかたちで情報を知識にしてあげたい。今日などは、最高に良いと思います。
マンション 300 世帯の管理とごみの問題。解決方法は見つからないとのこと。特に、ポストに入れられるチラシの件。	-

名簿番号	14
取組事例	**選択理由**
自治会で防犯カメラを取り付けたり、防災システムや設備を整えたりと、新しい方法を取り入れ、進歩的な活動をされている様子。自治会の出席率や、協力も高い比率を維持している。	学生なので、自治会の現状は聞き及ぶだけなのですが、自治会の連携希薄化が叫ばれている昨今において、これだけの参加率と活動内容を維持しているのは、本当に凄いと感じました。また、防災の件で、地震の対策は勿論だが、いつくるかわからない地震だけではなく、台風に対する備えという点でも、防災に取り組んでいて、防犯も防災も漠然とした危険より、身近な方が、周りの危機感を高めるだろうと思った。
町会の中に防犯カメラを付け加えて防犯対策をしている。	私達の町会にも欲しいと思い、役員会で出してみたいと思いました。

名簿番号	33
取組事例	**選択理由**
親が参加してくれるボランティア、子供を注意する時の言い方。	親のほとんどが知らなかったことを知ることができる。
子供見守り活動を一緒に活動しようとしても、学校側が非協力的な部分があり、難しいかも？安全マップ作成でも、学校の考え方が違うところがある。	-

名簿番号	42
取組事例	選択理由
週３回の防犯パトロール中でのタバコ、ごみのパトロールの協働・活動。	地域の安全・安心はセーフコミュニティが必要。
週３回、月･水･金、町会のパトロールに 20 人以上の方が集まる。一時間ほどの活動 11：00 ～ 12：00 頃。運動を兼ねて、コミュニケーションを取りながら行っている。	自分達もパトロールを行っているが、なかなか人が集まらない。人集めの参考になった。

名簿番号	48
取組事例	選択理由
どなたも人集めが大変なようです。	-
防犯パトロールを毎週行っている。違反広告を削除したり、落書きを消したりといった活動も行っている。	防犯パトロールは人とのつながりが大切であるということが心に残ったから。また、落書き等を消す作業もしていることに驚いたため。

名簿番号	57
取組事例	選択理由
自分でプリントする。	-
振り込め詐欺防止のキャンペーンをやっている。	-

名簿番号	70
取組事例	選択理由
高校生が公園等の公共施設の環境改善に取り組んでいることに感動しました。	私共の地域でも公園等の公共施設の改善は地域と行政と協議している。
高校生で、皆で協力して公園の安全を作る。練馬ピーポーズという活動の集まり。	子供を巻き込むのは、とても大切だと思う。

名簿番号	73
取組事例	選択理由
学生が参加するためにはどうしたら良いか。参加する魅力、どこが窓口か、ポイントが付くか、保険は。	是非、若者と年配者との交流が欲しい。行政からの連絡（どこの学校が参加が可能なのか）。
ご自身が参加していることに対して、周囲の人達からどのように見られているのかの問いと、学校と警察が連携し学生ボランティアを呼びかけていることがわかりました。若者達にボランティア精神の醸成が必要と考えました。	-

名簿番号	74
取組事例	選択理由
公共施設に花壇を高校生が整備。	きちんと整備された公園は、犯罪の温床になりにくい。子供も来やすい。
高校生の生徒会の取組でボランティアに参加した。パトロールや花壇の整理等をしている。	若い人の頑張りに拍手をしたい。

名簿番号	76
取組事例	選択理由
自分達の仲間でパトロール隊を立ち上げた。	既存の組織に関係なく、自分達で始めた点。
若い人を取り込むための活動として、他の機関とも活動をした方が良い。	全くその通りだと思った。

名簿番号	94
取組事例	選択理由
３学校の防犯パトロール、10 件以上あった。中学生による犯罪を、中学生達と親しく接することにより、今年の発生件数を０に抑えた。	活動の中で子供達とどのように接したら良いのか悩んでいる中で、このような成果が出たという話を聞けたのは、貴重な体験だった。
青パトの運行。	-

名簿番号	104
取組事例	選択理由
初対面の人とうまく会話するのはとても難しい。人とのコミュニケーションをとっておくことで、防犯の心がけがうまくいくし、犯罪が起こりにくい。	どんな面でも人とのコミュニケーションは大切なんだなと思いました。地域の人々が仲良しだと、犯罪が起こりにくいと思います。
大学３年で今まで何もしていないので、何かしなくてはと思い参加。	-

名簿番号	1
取組事例	選択理由
会員を増やすためのチラシ配布等の実施。結果はあまりなし。	わが会も同じ問題を持っており、参考にならなかった。

名簿番号	15
取組事例	選択理由
メンバーが高齢化していて、これから続けていく上で心配です。	-

名簿番号	16
取組事例	選択理由
高齢者が多く、怪我をする人が多いので、年齢制限をしようとのこと。	-

名簿番号	18
取組事例	選択理由
こまめに訪問する。電話を使わないようにしている。	-

名簿番号	26
取組事例	選択理由
長く続けることが必要ですとのこと。	この町の若い人が参加して後継者が育って欲しい。

名簿番号	27
取組事例	選択理由
ＳＶＳ（スチューデント・ボランティア・サークル）を作って協力して頂いている。	-

名簿番号	39
取組事例	選択理由
広報の方法。	-

名簿番号	47
取組事例	選択理由
商店街が問題。	地域の話が聞けて良かったです。

名簿番号	49
取組事例	選択理由
町、商店会とは良いが、行政と警察は、ＰＴＡ・学校とはよくできている。	歴史ある町なので、若い人、学生が参加して育っていて続けて欲しい。

名簿番号	51
取組事例	選択理由
若い人の活動は少人数になってしまう。	-

名簿番号	60
取組事例	選択理由
40 年防犯協会で活動しているが、なかなか人が入ってこない。高齢化が悩み。	-

名簿番号	67
取組事例	選択理由
地域安全マップづくり。	-

名簿番号	69
取組事例	選択理由
子供見守り隊の活動を通じて、子供達から元気な挨拶を受け、むしろこちらの活力が増える。	-

名簿番号	80
取組事例	選択理由
自分が警察官になって取り組みに参加したいという意識が伺えた。	すごいと思ったから。

名簿番号	81
取組事例	選択理由
振り込め詐欺被害防止の呼びかけ等を行っているが、私は高齢者ではないと拒否されてしまう。	-

名簿番号	84
取組事例	選択理由
月・水・金も 11 ～ 12 時の防犯パトロール。	参加意識が高いこと。目に見える活動を行っていること。

名簿番号	87
取組事例	選択理由
広報活動。	学生との連携をしたいが、内部事情がわからないので。

名簿番号	89
取組事例	選択理由
マウンテンバイク、オフロードバイクを講習して、災害時に助けに行く団体を作ったら参加するか聞いたら。	時間があり、機会があれば、参加したい。

名簿番号	90
取組事例	選択理由
学生ボランティアの努力にびっくりしました。	-

名簿番号	97
取組事例	選択理由
自分の活動の始まりが、コンビニの協会の方だという。	コンビニ関係が動くきっかけを知りたかった。

名簿番号	98
取組事例	選択理由
若い人の参加がない。どうしたら良いのか。	-

2　参加者アンケート

本アンケートはワークショップ参加者(101 名)に配付し、回収できた 87 票を有効票として集計した。グラフに記した（N ＝ 87）は、回答者の合計数を示している。このため単純回答の場合、回答個数の合計は 87 となるが、複数回答の場合、１人が複数個選択するため、回答個数の合計は 87 を超える。複数回答における占有率（%）は、回答個数を回答者総数 87 で除した値としている。

なお、(　) で囲んである数字は回答個数を表している。

配付された参加者アンケート用紙は、配付資料の資料６（P110）を参照。

1　加入している主な活動母体

加入している主な活動母体は、「町会・自治会」(39.1%）が最も多く、次いで「防犯協会」(37.9%)、「学生ボランティア」(23.0%）となっている（図１)。

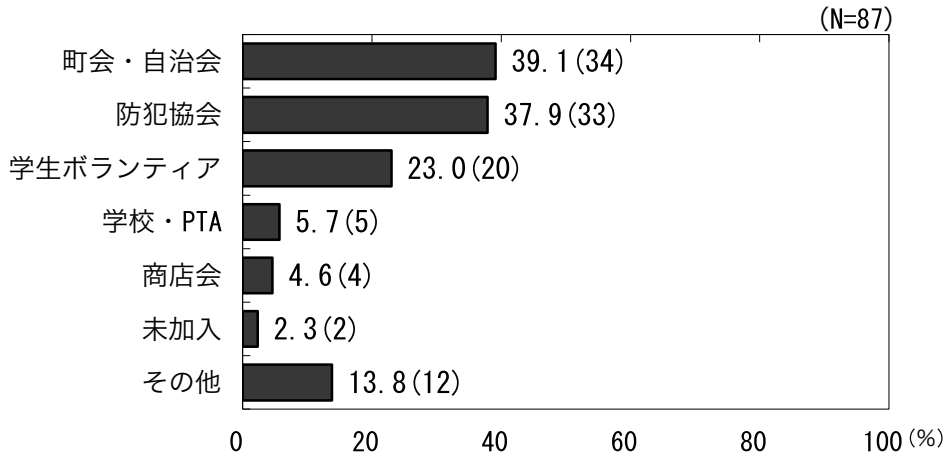


図１．加入している主な活動母体（複数回答）

【その他の内訳】	N
自主	2
自主防犯ボランティア・団体	2
六本木安全安心パトロール隊	1
消防団、消防少年団	1
中野区地域環境アドバイザー	1
地域の安全・安心を考える会	1
地域ボランティア団体	1
ＮＰＯ法人ささえ手	1
地区委員会	1
子供見守り委員会	1

2　防犯活動の取組年数

防犯活動の取組年数は、「15 年以上」（20.7％）が最も多く、「10 ～ 15 年未満」を合わせた防犯活動 10 年以上が、回答者の約 1/ 3（34.5％）を占めている（図２）。

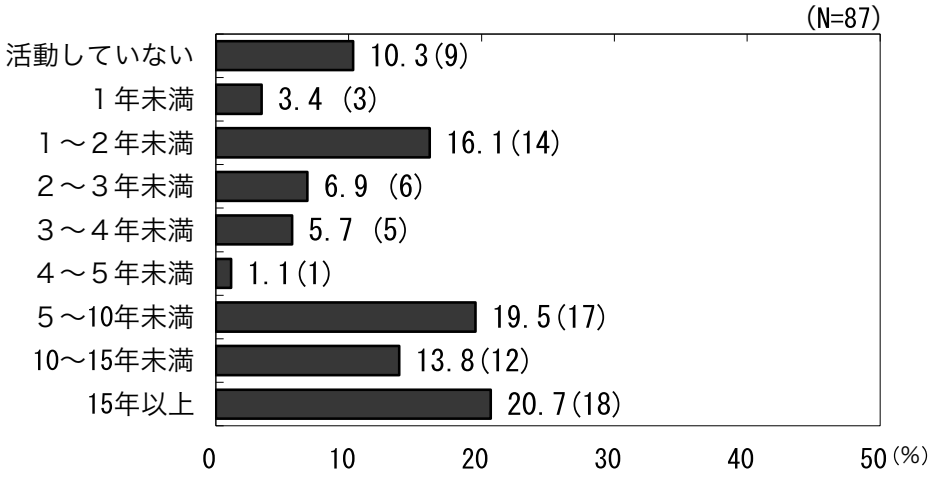


図２．防犯活動の取組年数

3　平均的な活動日数

平均的な活動日数は、「週に３日程度」（18.4％）が最も多く、次いで「月に１日」（17.2％）、「週に１日程度」（16.1％）となっている（図３）。

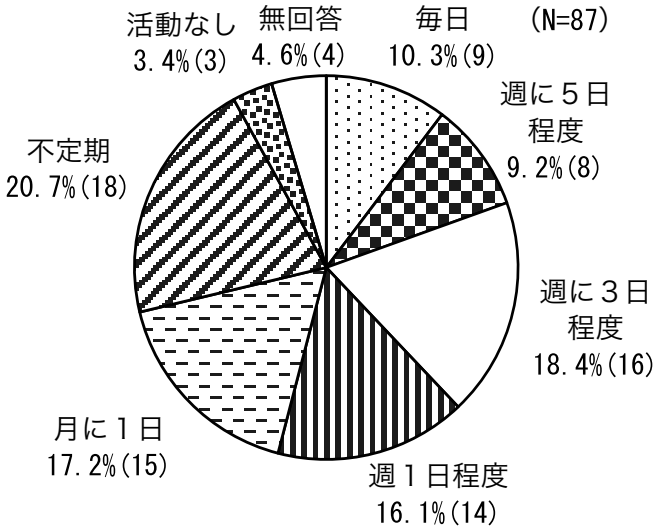


図３．平均的な活動日数

4　主な活動内容

主な活動内容は、「防犯パトロール」（69.0%）が最も多く、次いで「子供の安全確保（保護・誘導・見守り）」（36.8%）、「環境浄化活動（落書き対策・清掃活動など）」（27.6%）、「青少年の健全育成」（20.7%）となっている（図４）。

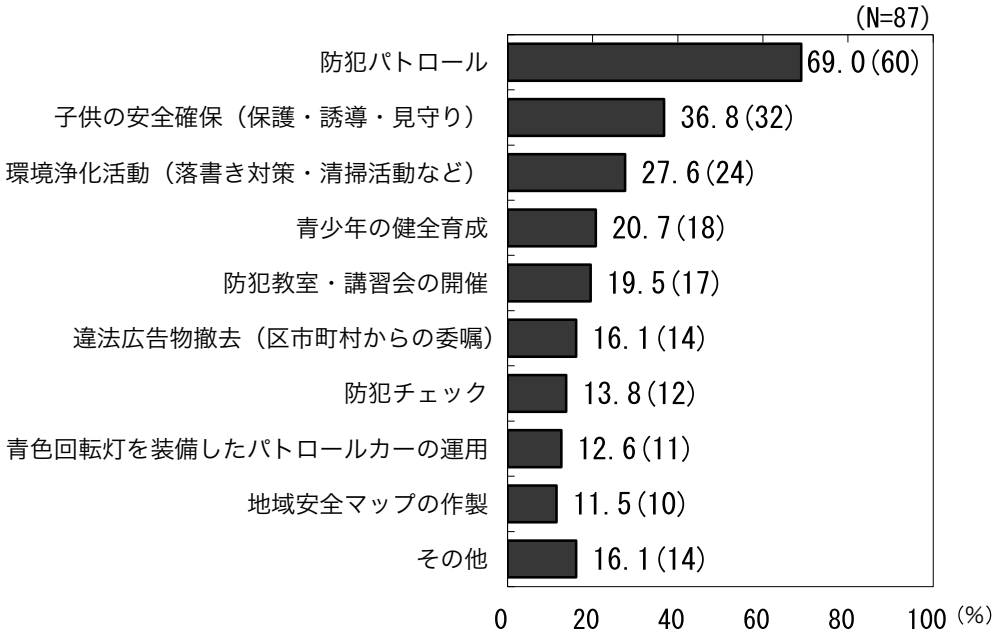


図４．主な活動内容（複数回答）

【その他の内訳】	N
チラシ配り	4
ポスター整備	3
83 運動	1
年間を通じ、振込み詐欺・万引き・ひったくり防止のキャンペーン	1
痴漢防止・振り込め詐欺防止キャンペーン	1
防犯パレード	1
地域安全安心ステーション	1
振り込め詐欺防止の広報	1
安全安心に関するもの、交通安全等	1

5　活動上の課題

活動上の課題は、「町会・自治会との連携」（41.4%）が最も多く、次いで「警察との連携」（39.1%）、「学校・ＰＴＡとの連携」（29.9%）、「仲間づくり」「構成員の高齢化」（ともに 26.4%）、「行政との連携」（23.0%）となっている（図５）。

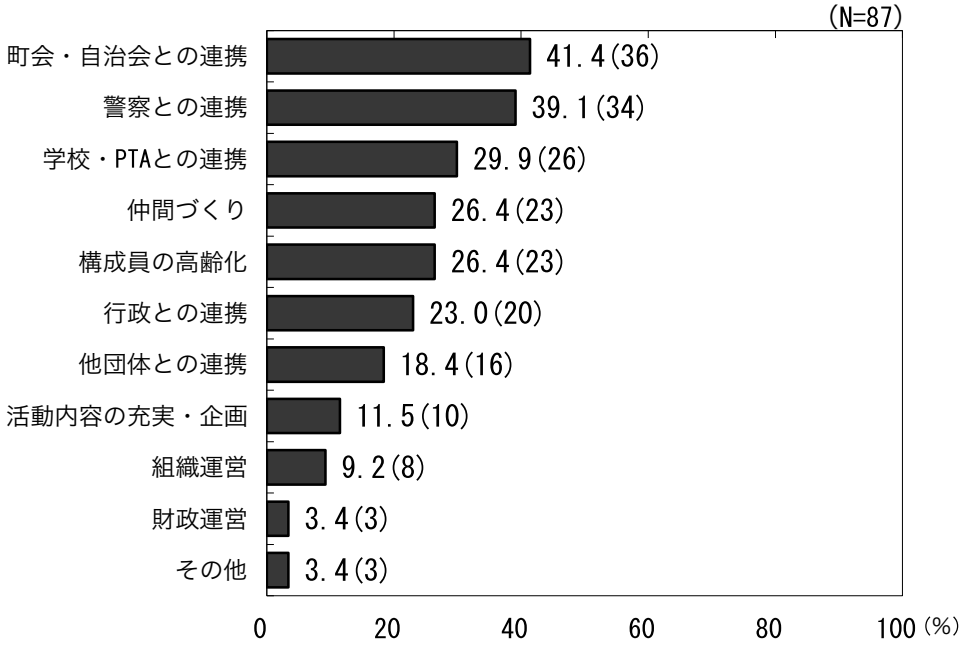


図５．活動上の課題（複数回答）

【その他の内訳】	N
異世代交流による後継者の育成	1
自助・共助の役割を自覚させること	1
地元住民への話し方	1

6　ワークショップに参加した感想

ワークショップに参加した感想は、「とても参考になった」「参考となった」を合わせると 82.7%となった（図６）。主な感想は以下のとおり。

また、それぞれの理由としては、表１に示すような意見が挙げられている。

・いろいろな話を聞くことができた。
・さまざまな活動団体の問題点や内容を聞くことができ、参考・勉強になった。
・これからの活動に関心が出た。
・他地域の活動内容を地元への活動に取り入れたい。
・若いボランティアが積極的に参加していることに驚きを感じた。
・自分達以外にもボランティアで防犯活動をしている人がいることを知り勇気が出た。
・単純に交流にもなった。
・いろいろな案を手に入れることができた。
・時間が足りず、充分に聞きたい部分を掘り下げることが難しかった。
・ファシリテーターを１つのテーブルに一人つけてほしかった。
・自分達の問題とマッチするテーマがなく、議論がかみ合わなかった。

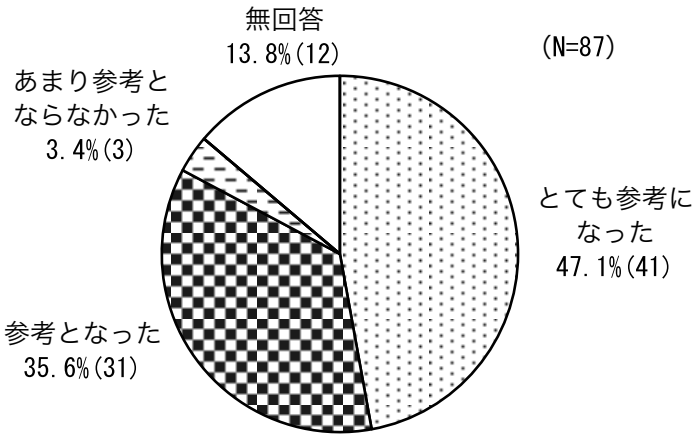


図６．ワークショップに参加した感想

表1．ワークショップに参加した感想（その理由）（1 / 2）

【とても参考になった理由】
一方的にお話を聞くだけではなく、お互いの話を聞くことによって実際に参考になることが多かった。
いろいろな話が聞けて私達のところにも取り入れられると思いました。
いろいろな話が聞けた。
いろいろ話し合いした結果、とても有意義なことでした。大変、勉強になりました。
各種の取組や苦労話が聞けた。学生の活躍の場が広がるように参考としたい。
学生さんや他の町会の皆様のお話が聞けたことが参考になりました。
学生ボランティアがいる。
学校での話し合いだけでは得ることができない内容を聞くことができた。
考えている問題が少しわかった。
行政や警察との連携により、メンバーを増やすことにつながるかと思う。また、子供（小学、中学、高校）の参加を促したいと考える。
さまざまな活動団体の問題点や活動内容を聞くことができ、とても参考になりました。
さまざまな経験の方々から貴重な意見を聞けました。方向性としても、多角的で、良かったと思います。
さまざまな世代の方と交流できたことが大きな成果だと思う。これからのボランティア活動に活かしていきたい。
さまざまな立場の人と接し、お互いの活動や課題を知ることができたため
参考になる意見を聞くことができました。
自分達以外の活動を聞けて、とても刺激になった。
自分は知らなかった活動や、これからの活動に興味・関心が出ました。
席替えが功を奏して楽しく聞き、自身を持って話せて、理解が広まった。
他地域の活動や様子がわかったこと。同じような問題を抱えること。その対策を解決しなくても頑張っていること。自分の方向性も見えたこと。得るものがたくさんでした。
他地区の活動内容を聞いて、地元に持ち帰り参考にさせて頂きます。学生さん（若い人）の意見を聞くことができたことは有意義でした。
他の学生ボランティアの方のお話を聞けて良かった。
他の団体での防犯パトロールのやり方が大きな参考になった。社会に関心が薄いと思われる若い人が、ボランティアに積極的に参加している点に、驚きを感じた。
他の団体メンバーとの交流
他のボランティア団体の活動内容を聞くのはとても参考になったが、それ以上に自分達のほかにも防犯につとめている方がこんなにいると知り、勇気が出た。
地域の連携の大切さを実感しました。学生ボランティアとして活動に参加するだけではなく、地域住民として地域の活動にも参加しようと思いました。
長年ボランティアをしている人たちの話をたくさん聞くことができ、課題も見つけることができてとてもためになった。
初めて参加して、さまざまなボランティア活動をしていることを知った。また、さまざまな問題があることも知った。
東村山市だけではなく、いろいろな区でやっていることを知ったこと。防犯カメラを町内会でつけていること等です。
勉強になりました。
皆さんの活動状況をお聞きできて大変に参考になった。防犯・防災は車の両輪であると思えた。
若い方、学生の方の話を聞けたこと。
若い人が多く参加していること。毎日・毎週、活動している方々が素晴らしいと思いました。
若い人の積極的な意見を聞くことができて良かったと思う。

表１．ワークショップに参加した感想（その理由）（2/ 2）

【参考となった理由】
いろいろな方とお話しできて良かったです。時間がもっとほしかった。
いろいろな活動方法があるのだということを知った。
多くの話が聞けて良かった。
会員増員への妙案には至らなかったが、いろいろな話を聞くことができたのは良かった。
学校でできないことや、地域の人とのかかわりの大切さがわかりました。これからもボランティアを頑張ります。
後継者育成や警察との協力を他の人から聞けて良かった。単純に交流にもなった。
後継者づくりは、やはりかなりの人達の課題でした。なかなか即効性のある施策はありませんが、地道に引き続きやっていこうと思います。
高齢化に対するいろいろな防犯が必要なのだと思いました。
子供の参加方法。
今後の活動に使える知識を得ることができた。
さまざまな活動の種類を知ることができたから。
さまざまな活動を知ることができ、勉強になりました。
参考となる意見がありました。
自分以外の人との交流、特に世代が違うのでいろいろな案を手に入れることができました。
他の活動されている方のお話が聞けたので良かった。
他の活動の話がきけたこと
特にリーダー育成のやり方に貴重な意見がありました。
人がいない、積極的に参加する人が少ない。
人の話を聞くことができて、知らないことがあると気付いた。
ファシリテーターを１つのテーブルに一人つけて欲しかった。時間が少なく感じた。
ボランティアとは自分自身を高めることにあることを再認識した。
本人の熱心さが一番
若いボランティアとの活動が共有できそう。

【あまり参考とならなかった理由】
１つのテーブルで議論する時間が少々足りず、充分に聞きたい部分を掘り下げることが難しかったため
私共の問題とマッチするテーマがなく、議論が噛み合わない。
若い高校生、大学生の参加があり、活発な話し合いに感動した。これからはなるべく褒めて参加をして頂く努力をいたします。

※参　考

グループ発表の際にも感想などがありましたので、紹介します。

○「参加者の拡大」のグループに参加したが、どうしても話が堂々巡りになってしまった。
○ 最近、学生ボランティアに加入したが、具体的には何も活動していなかった。今回のワークショップで、いろいろな方が活動されていると知った。機会があれば自分からどんどん参加していきたい。
○ 学生ボランティアがたくさん参加していて大変勉強になった。学生達がこれだけのことをやっているというのがわかった。どうしたら学生達と町会や地域の人達が無駄のない交流をしながら防犯活動をできるのかと思っていたので、良い機会をいただいた。
○ 高校２年で生徒会活動をしている。いろいろなボランティア活動の話を聞くことができたので良い機会であった。
○ 自分に刺激を与える目的で本日参加した。防犯や子供見守り活動をしているが、だんだんと慣れが出ているのではないかと思っていた。みなさんの意見を聞いて自分に活を入れたいと思った。
○ 若い人達に入ってもらう良いアイディアがあれば参考にしたいと思って参加した。
○ 町会で防犯パトロールを月２回行っている。他の方がどういう活動をされているのかを知りたくて参加した。
○ 学生ボランティアの話を聞いて少々びっくりした。若い人は社会に無関心ではないかと思っていたが、意外とそうでもないことがわかった。
○ 学生でこのような活動をしているなら、うちの地域でも是非活動していただきたい。また、そういう学生もいることは心強い。地域の方の防犯ボランティアに対する温度差が随分あると感じた。
○ 自分の地域は犯罪が少ない所なので、活動に熱心な方は少ない。継続できる良い知恵をもらいに来たが、やはり似たような考えの方が多かった。
○ ワークショップに参加して、いろいろな世代の方達の話を聞いていくことは、自身も成長できるし知識が広がる。
○ 大学一年で活動を始めたばかりだが、いろいろな方のお話を聞き、各地域でやっていることは違うが、みなさん防犯活動を真剣に考えている姿を見て、自分もいろいろなことを知り、防犯に対する知識を深めたいと思った。
○ 最近、防犯パトロール隊を結成した。いろいろなことを吸収しようと参加した。
○ 他の地域でどんな防犯活動をしているのかと思い参加した。日頃活動している取組以外にも、まだたくさんの取組があることを知り、考え方、やり方、手法が違う。良い所をみなさんからいただいて役立てたい。
○ 子供がいない地域に、どうやって子供会をつくるのか、半分あきらめているが、何らかの形で次世代に残せるものをつくりたい。
○ 若者の防犯活動への参加はどうなっているのかと思いここに参加した。

7　席替えの感想

○ 席替えの感想は、「とても良かった」が 70.1％となっている。（図７）。

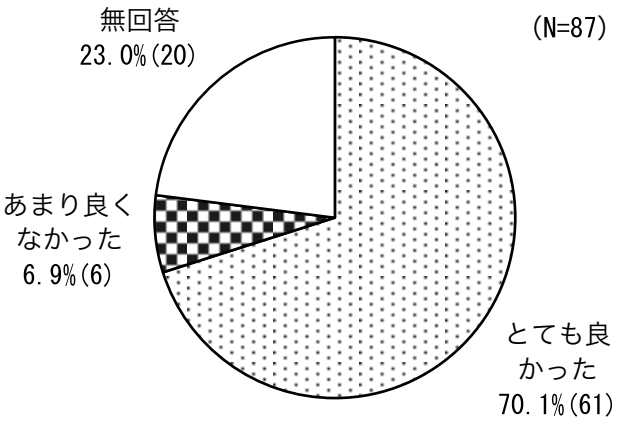


図７．席替えの感想

○ それぞれの理由としては、表２に示すような意見が挙げられている。主なものは以下のとおり。

・いろいろな意見を聞くことができた。
・繰り返して話すことで、参加者がオープンになってきた。
・さまざまな人と交流することができて良かった。
・時間が足りずに、テーマを決めてじっくり話ができるようにしてほしい。
・バタバタとして落ち着かない。

表２．席替えの感想

いろいろな人と話せた。いろいろな意見を聞くことができた。（類似回答 28 件）
いろいろな人と話ができたが、もう少しつっこんで話をする時間があっても良い。（類似回答５件）
考えさせられた。皆様、いろいろ苦労され、工夫されていた。（類似回答３件）
新しい考えを聞くことができた。議論が新鮮だった。（類似回答２件）
自分達とは違う話を聞き、参考になった。（類似回答２件）
一回だけより、二回、三回と繰り返して話すことにより、皆さんもオープンになってきて良かった。
面白かった。人の前で意見を言うのは気になる。ゆっくり話を聞けた。
参加者拡大や、行政や警察との連携が各人の話の中でよく聞けたことが良かった。
自分の思っていること、参考にしていきたいものがあるので良いと思います。
席替え等したことがなかったので新鮮だった。
席替えは２回が良い。
テーマを分けることにより、１つのテーマをみっちりと話すことができたため
話を短くまとめようとする意識を持って話せたので、多くの話題を聞く、話すことができたので、良かったと思う。
分科会の２テーマの参加。
まだまだ都の指導等がなければ、住み良い地域は生まれません。
バタバタとして落ち着かない。メンバーについて把握するだけで時間がかかって勿体ない。

8　ワークショップの開催時間について

ワークショップの開催時間については、「ちょうどよい」(50.6%) が最も多く、次いで「長い」(25.3%)、「短い」(11.5%) となっている (図8)。

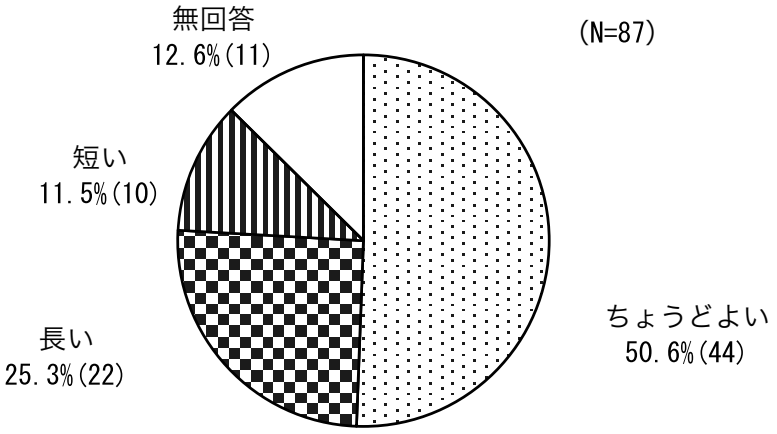


図8．ワークショップの開催時間について

9　ワークショップの開催日について

ワークショップの開催日については、今回のワークショップと同様の「日曜日・祝祭日」(40.2%) が最も多く、次いで「土曜日」(23.0%)、「平日」(12.6%) となっている (図9)。

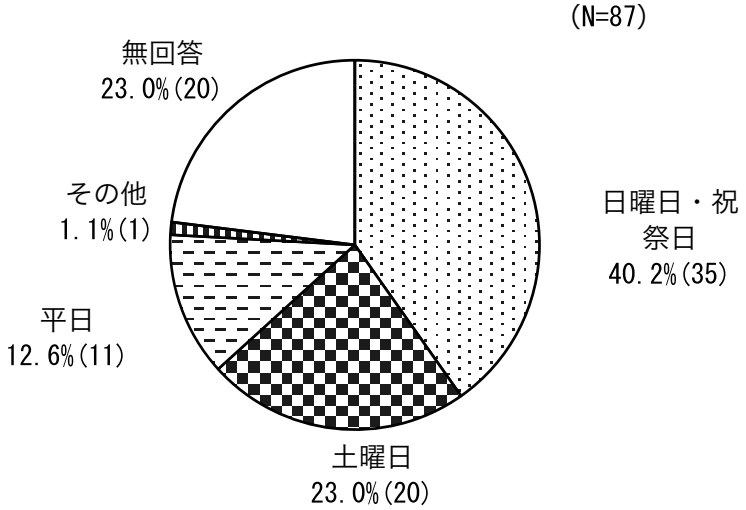


図9．ワークショップの開催日について

10　今後、同様のワークショップへの参加意向

今後、同様のワークショップへの参加意向は、「参加する」「都合がつけば参加する」合わせて81.6%となっており、「参加しない」は2.3%にとどまっている（図10）。

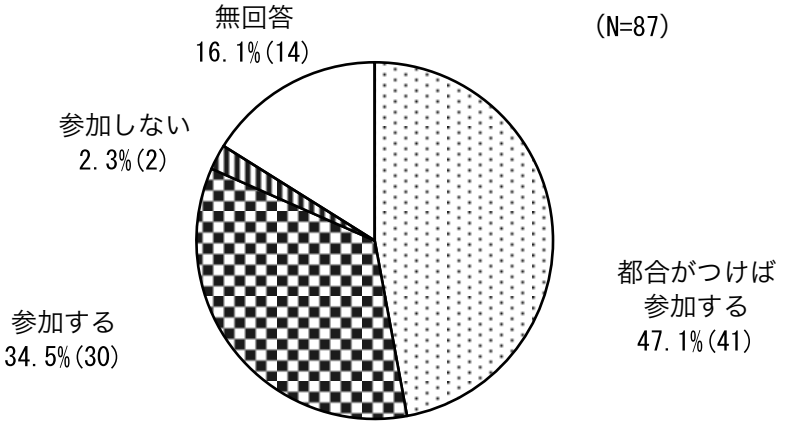


図10. 今後、同様のワークショップへの参加意向

11　もっと知りたいと思った取組事例

表３のような取組事例が挙げられた。

表３．もっと知りたいと思った取組事例

【分科会：活動内容の充実】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
1	活動内容の充実を主として、ボランティアの幅を広げる。
無回答	具体的な充実の内容、計画。

【分科会：活動内容の充実、学校・ＰＴＡとの上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
1	防犯について、いろいろな話が聞けた。深い話が、グループごとなので良かった。
3	地域防犯広報活動、活動参加者を増やす結論がでなかった。
8	ボランティアがなかなか集まらないこと。高校生が地域活動をしていることが素晴らしいことだと思いました。

【分科会：参加者の拡大】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
4	後継者問題。
5	私達と同世代で防犯活動をしているＳＶＳ（成城警察署ボランティア団体）をもっと知りたいと思った。
7	①町会の高齢者、特に女性を 40 名くらいの防犯パトロール隊を組織して、月水金 11 ～ 20 時と決めて習慣化されている。②防犯活動を企業に呼びかけている。
8	町会全体となると商店街組織、ＰＴＡ組織、未加入者、町内外の参加が得られにくいので、後継者の育成が非常に難しい状況になっている様子が見えました。
無回答	後継者問題について話していたことを聞いてみたかった。
無回答	組織の作り方が大変良かったです。
無回答	防犯ボランティアを増やすには？
無回答	参加者の拡大、どのような活動をしていったら良いか。

【分科会：行政や警察との上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
3	セーフコミュニティの内容。
8	振り込め詐欺撲滅に参加します。
11	警察・消防（防犯・防災）との連携、企業参加の事例発表
無回答	話の中で、行政との協力の必要性を多く聞いたが、ボランティア側からどのような要望があるのか。行政からは、どのようなレスポンスがあるのかを聞きたい。
無回答	自分で旗を作り、警察署に行った人の話を聞いてすごいと思った。ボランティアは積極的に行わなくてはいけないなと、今日参加して思いました。

【分科会：学校・ＰＴＡとの上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
16	学生団体と地域の町会・ＰＴＡとの連携。
無回答	町会と学校との連絡ごとでの話し合い。

12　ワークショップの運営についての意見

主に表４のようなものが挙げられた。

・各方面の話を聞くことができた。
・運営がスムーズだった。
・長時間で疲れている人がいたので、短時間で集中しても良い。
・安全・安心まちづくりアカデミー講座や見守りボランティアリーダー育成講座の内容を紹介してみてはどうか。

表４．ワークショップの運営についての意見

ありがとうございました。また、何かありましたら、参加したいです。（類似回答３件）
たくさんのボランティアの活動例を聞きました。参考になることが多くありました。今後もこういったワークショップを開催して頂けるとありがたいです。（類似回答３件）
初めてのワークショップだったので戸惑ったが、参加してみて勉強になった部分もあった。（類似回答２件）
同じような問題に取り組んでいる地域と協議したいと思います。
開催時間が長く負担に感じた。全体的に何をするのか内容を把握していなかったので、少し面食らった。でも、全体的に参考になった（若い人の意見・考え方を聞けて）。
学生さんのボランティアの人が増えたのが良かったと思います。
最初は難しいことかなと不安があった。自分は何ができるのか考えさせられた。地域で安全・安心な街づくりをしていくようにしたい。
長時間だったため、大変疲れている方がいらっしゃいました。高齢の方もいらっしゃいますので、短時間に集中して行うのも良いのではないでしょうか。本日はありがとうございました。
テーマ別にテーブルにつきましたが、あまりテーマにとらわれることもなかったように感じました。関係者の皆様、ご準備、ありがとうございました。
とてもスムーズに運営して頂き、ありがとうございました。
防犯・防災は車の両輪であるとともに、行政は縦割りであると言われ、民間は横のつながりと言われているので、行政と民間との連携が必要であると考える。
安全・安心まちづくりアカデミー講座と見守りボランティアリーダー育成講座の内容を紹介してみてはいかがでしょうか。

【参考資料：参加者アンケート集計表】

※複数回答の場合、回答個数の合計と回答総数の数は一致しない。

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ参加者アンケート集計結果

1　加入している主な活動母体		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
町会・自治会	34	39.1
商店会	4	4.6
学校・PTA	5	5.7
防犯協会	33	37.9
学生ボランティア	20	23.0
未加入	2	2.3
その他	12	13.8
無回答	1	1.1
回答総数	87	100.0
2　防犯活動の取組年数		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
活動していない	9	10.3
１年未満	3	3.4
１～２年未満	14	16.1
２～３年未満	6	6.9
３～４年未満	5	5.7
４～５年未満	1	1.1
５～10年未満	17	19.5
10～15年未満	12	13.8
15年以上	18	20.7
無回答	2	2.3
回答総数	87	100.0
3　平均的な活動日数		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
毎日	9	10.3
週に５日程度	8	9.2
週に３日程度	16	18.4
週１日程度	14	16.1
月に１日	15	17.2
不定期	18	20.7
活動なし	3	3.4
無回答	4	4.6
合計	87	100.0
4　主な活動内容		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
防犯パトロール	60	69.0
青色回転灯を装備したパトロールカーの運用	11	12.6
子供の安全確保（保護・誘導・見守り）	32	36.8
青少年の健全育成	18	20.7
環境浄化活動（落書き対策・清掃活動など）	24	27.6
違法広告物撤去（区市町村からの委嘱）	14	16.1
防犯教室・講習会の開催	17	19.5
地域安全マップの作製	10	11.5
防犯チェック	12	13.8
その他	14	16.1
無回答	7	8.0
回答総数	87	100.0
5　活動上の課題		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
行政との連携	20	23.0
警察との連携	34	39.1
町会・自治会との連携	36	41.4
学校・PTAとの連携	26	29.9
組織運営	8	9.2
仲間づくり	23	26.4
構成員の高齢化	23	26.4
他団体との連携	16	18.4
財政運営	3	3.4
活動内容の充実・企画	10	11.5
その他	3	3.4
無回答	4	4.6
回答総数	87	100.0

6　ワークショップに参加した感想		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
とても参考になった	41	47.1
参考となった	31	35.6
あまり参考とならなかった	3	3.4
参考とならなかった	0	0.0
無回答	12	13.8
合計	87	100.0
7　席替えの感想		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
とても良かった	61	70.1
あまり良くなかった	6	6.9
無回答	20	23.0
合計	87	100.0
8　ワークショップの開催時間について		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
長い	22	25.3
短い	10	11.5
ちょうどよい	44	50.6
無回答	11	12.6
合計	87	100.0
9　ワークショップの開催日について		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
平日	11	12.6
土曜日	20	23.0
日曜日・祝祭日	35	40.2
その他	1	1.1
無回答	20	23.0
合計	87	100.0
10　今後、同様のワークショップへの参加意向		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
参加する	30	34.5
都合がつけば参加する	41	47.1
参加しない	2	2.3
無回答	14	16.1
合計	87	100.0

3 配付資料

安全･安心まちづくり課　ＦＡＸ番号　　０３－５３８８－１２１７

平成24年度「防犯ボランティアのつどい」 参加申込書

平成24年　　月　　日

東京都青少年･治安対策本部　安全･安心まちづくり課　あて

１１月１８日（日曜日）開催の「防犯ボランティアのつどい」への参加を希望します。

いずれかに○を付けてください。(複数可)

所属団体等		安全･安心まちづくりアカデミー修了者
		子供見守りボランティアリーダー育成講座修了
		落書き消去サポーター
		防犯ボランティア団体
		学生ボランティア

住　　所	〒
氏　　名	
電　　話	
ＦＡＸ	
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	

■■■■■■■■■■■■■■ 事 前 ア ン ケ ー ト ■■■■■■■■■■■■■■■■

＊ ワークショップにおけるグループ分けの参考としますので、必ずご記入下さい。よろし

1　このワークショップでは、みなさんが地域で防犯活動を行う上で最も関心のあることについて意見交流していただきたいと考えています。そこでお尋ねします。
この機会にぜひ話し合ってみたいテーマとその理由を第2候補まで簡潔にご記入下さい。

第1候補	【テーマ】	
	（理由）	

第2候補	【テーマ】	
	（理由）	

記入例	【テーマ】	行政との連携
	（理由）	活動案を持って役所へ相談に行こうとしたが、手続きが良く分からず諦めた。
		または、補助等様々な支援や連携をお願いしたが、断られた。

（その他のテーマ例）　学校との連携　警察との連携　町会･自治会との連携　若者の活動参加など、自由にご記入下さい。

2　活動を行う上で困っていること、相談したいこと、成功事例･失敗事例を簡潔にご記入下さい。

困っていること、相談したいこと	
成功事例･失敗事例	

ありがとうございました。

資料１

～ いいなぁ 安心まちづくり ワークショップ　次第 ～

開　会	浦谷 安全・安心まちづくり担当課長
運営委員長　挨　拶	小出 東京大学大学院教授
オリエンテーション	杉崎 まちづくりコーディネーター

グループ活動

・自己紹介（一人１分）

・意見交換（27分）

・グループ活動レポート記入（5分）

◆席替え

・自己紹介（一人１分）

・意見交換（27分）

・グループ活動レポート記入（5分）

【分科会のテーマ】

◆活動内容の充実
◆参加者の拡大
◆行政や警察との上手な連携
◆学校・PTAとの上手な連携

休　憩（10分）

グループ発表

席替え

グループ内での発表（20分）

　このワークショップでは、より多くの方と知り合っていただき、ネットワークの輪を広げていただくため、席替えをたくさんします。
　皆さん、より多くの仲間づくりをしましょう！

全体発表（5分）	各分科会１名
講師講評（6分）	小出先生、樋野先生、杉崎先生
閉会　挨拶	五十嵐治安対策担当部長
「いいなぁ 安心の樹」の作成（10分）	参加者全員
記念撮影	参加者全員

※　17:30まで、交流の場として受付ホールをご利用いただけます。

資料２

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
1	港区	8		○		
2	港区	11		○		
3	港区	3			○	
4	新宿区	5		○		
5	新宿区	2		○		
6	新宿区	4		○		
7	新宿区	16	○	○		
8	新宿区	4		○		
9	文京区	3		○		
10	台東区	8	○			
11	江東区	11	○			
12	江東区	4		○		
13	品川区	1			○	
14	目黒区	11		○		
15	世田谷区	5			○	
16	世田谷区	6				○
17	世田谷区	9			○	
18	世田谷区	10			○	
19	世田谷区	16			○	
20	世田谷区	15		○		
21	世田谷区	1			○	
22	世田谷区	15			○	
23	世田谷区	12				○
24	世田谷区	2			○	
25	世田谷区	14			○	
26	世田谷区	4			○	
27	世田谷区	10		○		
28	世田谷区	13			○	
29	渋谷区	5				○
30	渋谷区	3			○	
31	渋谷区	7			○	
32	渋谷区	16			○	
33	中野区	2	○	○		
34	中野区	16	○	○		

※個人情報に配慮して氏名は割愛してあります。

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

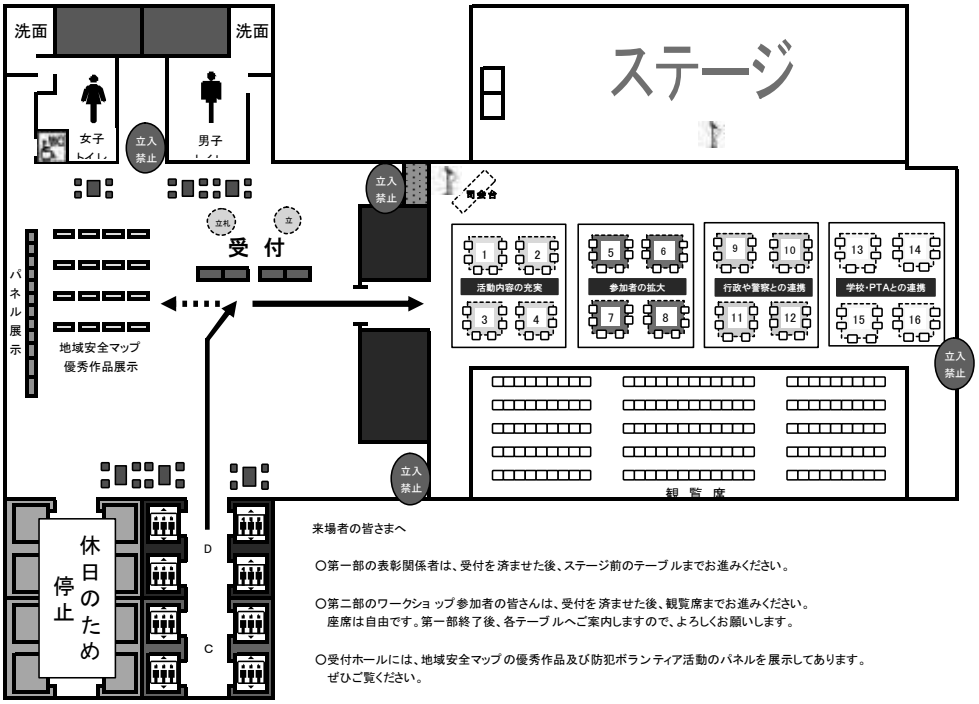
名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
35	中野区	15	○	○		
36	杉並区	10		○		
37	杉並区	7	○			
38	杉並区	8			○	
39	杉並区	3			○	
40	杉並区	9	○			
41	杉並区	12			○	
42	杉並区	2			○	
43	杉並区	6		○		
44	杉並区	9	○	○		
45	杉並区	14		○		
46	杉並区	3				○
47	杉並区	8			○	
48	杉並区	13		○		
49	杉並区	6	○			
50	豊島区	13			○	
51	豊島区	15			○	
52	豊島区	14			○	
53	豊島区	9			○	
54	豊島区	14			○	
55	豊島区	10			○	
56	豊島区	11		○		
57	豊島区	12			○	
58	豊島区	11			○	
59	豊島区	13			○	
60	豊島区	16			○	
61	豊島区	9			○	
62	北区	12	○			
63	板橋区	3			○	
64	練馬区	16				○
65	練馬区	13				○
66	練馬区	13	○	○		
67	練馬区	12		○		
68	練馬区	1		○		
69	練馬区	7	○			

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
70	練馬区	15				○
71	練馬区	1				○
72	練馬区	6				○
73	練馬区	7				○
74	練馬区	14				○
75	練馬区	15	○	○		
76	練馬区	4		○		
77	葛飾区	14	○			
78	八王子市	5				○
79	八王子市	10		○		
80	三鷹市	11				○
81	調布市	5				○
82	町田市	12	○			
83	小金井市	10			○	
84	日野市	1				○
85	日野市	8				○
86	日野市	5		○		
87	日野市	7				○
88	日野市	2		○		
89	日野市	4				○
90	日野市	6				○
91	日野市	16			○	
92	東村山市	1			○	
93	東村山市	3			○	
94	東村山市	15			○	
95	東村山市	12	○			
96	東村山市	7			○	
97	東村山市	8			○	
98	東村山市	2			○	
99	東村山市	6		○		
100	国分寺市	9	○	○		
101	狛江市	8		○		
102	清瀬市	7		○		
103	埼玉県	11				○
104	神奈川県	4				○

資料３

平成24年度　防犯ボランティアのつどい　会場案内図



来場者の皆さまへ

○第一部の表彰関係者は、受付を済ませた後、ステージ前のテーブルまでお進みください。

○第二部のワークショップ参加者の皆さんは、受付を済ませた後、観覧席までお進みください。
座席は自由です。第一部終了後、各テーブルへご案内しますので、よろしくお願いします。

○受付ホールには、地域安全マップの優秀作品及び防犯ボランティア活動のパネルを展示してあります。
ぜひご覧ください。

資料４

「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」の分科会一覧

初めにご着席いただくテーブルは、申込時のアンケートに沿って事務局で指定させていただきましグループ活動では席替えを予定していますので、その際の参考としてください。

活動内容の充実

○既存の活動のレベルアップ
○新しい活動の企画・実施に向けた取組方法
○地域の課題解決に向けた検討手法
○社会的防犯事案に対する問題意識の共有と、ボランティア活動への反映
○防災活動との連携
○交通安全活動との連携
など

～ 青色のテーブル

参加者の拡大

○メンバーの高齢化に伴う団体の維持・継続
○青年・壮年世代への働きかけ
○ボランティア活動未経験の高齢者への働きかけ
○防犯ボランティア団体と学生ボランティアとの連携
○参加者拡大に向けたイベントの企画・開催
など

～ ピンクのテーブル

行政や警察との連携

○地元の区市町村や警察署への相談・働きかけ方
○防犯活動関連の補助金情報（東京都、区市町村ほか）
○行政や警察との上手な連携の仕方
○行政や警察への各種申請手続き
○地域の防犯情報の取得
○防犯講和の講師派遣
など

～ 緑色のテーブル ～

学校・PTAとの連携

○地域と学校の関わり
○地域活動へのPTAや子供の参加呼びかけ
○具体的な子供の見守り方法のほか、
○防犯ボランティア団体と学校との連携
○防犯ボランティア団体と町会や自治会、商店会との連携
○町会と町会の連携
など

～ 黄色のテーブル ～

資料５

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ　グループ活動レポート

名簿番号	

※ 名簿上の番号をご記入下さい
（名札にも書いてあります）

氏名	

グループ活動（意見交換）の中で、今後の活動の参考となると思われる事例がありましたら、お２人まで以下の記入欄にご記入ください。

【席替え前のグループでの意見交換】

参加された分科会に〇をし、テーブル番号を記入ください

分科会		
		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

①	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

②	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

【席替え後のグループでの意見交換】

参加された分科会に〇をし、テーブル番号を記入ください

分科会		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

①	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

②	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

♣ このレポートは、グループ発表のときの参考としてご利用ください。

♣ グループ発表後に回収しますのでよろしく御協力願います。

資 料 6

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ　参加者アンケート

名簿番号	

※ 名簿上の番号をご記入下さい
（名札にも書いてあります）

氏名	

今後の安全・安心まちづくり施策の参考とさせていただきますので、ご記入下さい。

1　あなたが加入している主な活動母体を次の中からお選びください（複数可）。　回答欄

①町会・自治会　②商店会　③学校・ＰＴＡ　④ 防犯協会　⑤学生ボランティア　⑥未加入
⑦その他（　　）

2　あなたの防犯活動の取組年数をお聞かせください。　回答欄　　年

※ 活動されていない場合は、「０年」とご記入下さい。

3　あなたの平均的な活動日数をお聞かせください。　回答欄

①毎日　②週に５日程度　③週に３日程度　④週１日程度　⑤月に1日　⑥不定期　⑦活動なし

4　あなたの主な活動内容をお聞かせください（複数可）。　回答欄

①防犯パトロール　②青色回転灯を装備したパトロールカーの運用　③子供の安全確保(保護・誘導・見守り)
④青少年の健全育成　⑤環境浄化活動(落書き対策・清掃活動など)　⑥違法広告物撤去(市町村からの委嘱)
⑦防犯教室・講習会の開催　⑧地域安全マップの作製　⑨防犯チェック　⑩その他(　　)

5　あなたが活動をする上での課題をお聞かせください（複数可）。　回答欄

①行政との連携　②警察との連携　③町会・自治会との連携　④学校・ＰＴＡとの連携　⑤組織運営
⑥仲間づくり　⑦ 構成員の高齢化　⑧ 他団体との連携　⑨ 財政運営　⑩活動内容の充実・企画
⑪その他(　　)

６以下は、ワークショップ終了時にご記入ください。

6　本日のワークショップに参加した感想をお聞かせください。　回答欄

①とても参考になった　②参考となった　③あまり参考とならなかった　④参考とならなかった

理由	

裏面につづく

7　グループ活動における席替えの感想をお聞かせください。

回答欄	

①とても良かった

②あまり良くなかった

理由	

8　ワークショップの開催時間について、感想をお聞かせください。

回答欄	

① 長い　　②　短い　　③　ちょうどよい

9　ワークショップの開催日について、最も望ましいものをお選びください。

回答欄	

① 平日　　②土曜日　　③日曜日・祝祭日　　④その他(　　)

10　今後、同様のワークショップを開催した場合、参加されますか。

回答欄	

① 参加する　　② 都合がつけば参加する　　③ 参加しない

11　他のメンバーのグループ発表を聞いて、自分が参加しなかった他のテーブルでも、この方の活動内容をもっと知りたいと思われた取組事例がありましたら、以下にご記入ください。

ご要望の多い事例を取材し、報告書でご紹介することを予定しています。

分科会		
		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

どのような取組事例か、ご記入ください	

12　本日のワークショップの運営について、ご意見等があればご記入ください。

ありがとうございました。

資料７

平成24年度 いいなぁ 安心まちづくりワークショップ 意見交換メモ

【あなたの自己紹介メモ】 ※１分以内で簡潔にお話できる内容にまとめてください

名簿番号		区市町村		氏名	
自分の地域の特徴					
この分科会を選んだ理由（理由がない場合は、今日聞いてみたいこと）					

【席替え前のグループ】 ※ 名簿番号、区市町村、氏名は名札に書いてあります。

名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	

※ この用紙は回収しませんので、お気軽にご利用ください。

【席替え後のグループ】 ※ 名簿番号、区市町村、氏名は名札に書いてあります。

名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	

※ この用紙は回収しませんので、お気軽にご利用ください。

4 「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会

委員長　小出　　治（東京大学大学院教授）
委　員　樋野　公宏（独立行政法人建築研究所主任研究員）
委　員　杉崎　和久（まちづくりコーディネーター）
委　員　斉藤美和子（東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者）
委　員　豊田　治樹（東京都安全・安心まちづくりアカデミー修了者）

(1) 第１回委員会
① 開催日：平成 24 年９月６日（木）
② 場　所：25 階 110 会議室
③ 議　事：ワークショップの運営方法（案）について

(2) 第２回委員会
① 開催日：平成 24 年 10 月 26 日（金）
② 場　所：都庁第一本庁舎 35 階北側 35B 会議室
③ 議　事：ワークショップの運営方法について
　　分科会テーマの抽出について

(3) 第３回委員会
① 開催日：平成 25 年１月 31 日（木）
② 場　所：都庁第一本庁舎 25 階 106 会議室
③ 議　事：報告書（案）について